日本国際文化学会第21回研究会開催報告

2013年12月19日(木)、18時35分から20時40分まで日本国際文化学会と法政大学国際日本学研究所の共催により、日本国際文化学会の第21回研究会「クライストチャーチのための歌——ニュージーランドの震災に対する音楽の役割」が開催された。開場は法政大学国際日本学研究所セミナー室であった。

今回は、シェリー・ブラント氏(ロイヤル・メルボルン工科大学専任講師)を招き、2011年2月22日にニュージーランド第2の都市であり約38万の人口を抱えるクライストチャーチで発生した地震を取り上げ、震災後に音楽家や音楽活動に従事する愛好家などがどのように被災者の支援に取り組んだか、また、震災からの復興に際して音楽がどのような役割を果たし方が民族音楽学的観点から検討された。

ブラント氏による報告により、震災からの復興戦略に「文化の復興」が明記されていること、官民共同での文化活動の推進、あるいは各種の団体による取り組みなどが具体的に説明されたことで、クライストチャーチでは音楽が震災という困難な状況に適合し、そこから回復するための手段として用いられていることが実証的に示された。その意味で、今回の研究会は意義深いものとなった。

最後に、今回の研究会の開催を助成された日本国際文化学会及び共催機関となった法政大学国際日本学研究所に改めて謝意を表する次第である。

(鈴木裕輔)